

よみうり タウンニュース

毎週木曜発行・読売の地域情報紙 部数200,000部

部数200,000部

発行 / 茨城北部読売会 No.1838

制作 / (株) 読売茨城タウンニュース社

2023 年

(令和5年)

7-27

1月27日

世界につながる45分の船旅

鹿島埠頭が運航する遊覧船・ユーリカ(神栖)

乗船中は、非日常感があふれる光景を目の当たり

県の第三セクター鹿島埠頭(神栖市東深芝)が運航する遊覧船ユーリカの航路は、鹿島港の中央航路、北航路、南航路。同港は、鹿島臨海工業地帯と世界をつなぐ場所。3つの航路はつながっていて、航空写真で見ると「Y」の字の形。ユーリカは、Yの字の淵を沿うように1周する。1周、約45分の運航となる。

最も広い中央航路の横幅は、約600メートル。航路脇には、さまざまな業種の会社が並び、それぞれの敷地に各国から運び込まれた原材料が置かれている。原材料の内容もさまざまだ。工業用の塩が本物の山のように積まれたところもある。丸太、鋼材、石炭などのほか、一見しただけでは判別ができないものもある。

それぞれを運ぶ船もバラエティに富む。長さ3

IBARAKI 乗り



停泊していた大型貨物船。長さ約300㍍級が2隻連なっていた

00光超で見上げる高さの大型貨物船もある。船上の外國人の船員にカメラを向けると、気さくに手を振ってくれた。

在。青春を振り返るようにして、遊覧船に乗るこという。

小学生たちに校外学習で乗船してもらうのは、鹿島港について学んでもらおうという当初からの目的に沿ったもの。

それは、小学生たち自身が、自分と世界とのつながりを感じる機会になっている。

同社の遊覧船担当の人、小野利文さん(50)は、小学校時代、ユーリカの

た
と小野さん。
小野さんは、忘れてしまっていたことを残念がるが、無意識下で今にながつてることを感じている。今の仕事に就いた動機の1つに、世界と関わりたいという思いがあったからだ。



ユーリカ

た」と小野さん。
小野さんは、忘れてしまっていたことを残念がながっていることを感じている。今の仕事に就いた動機の1つに、世界を関わりたいという思いがあつたからだ。